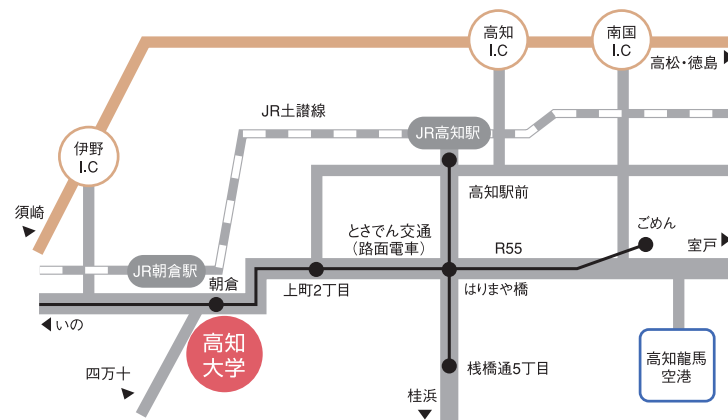


交通アクセス



- 空港から(公共交通機関で)約1時間 ● 伊野I.Cから(車で)約5分
- JR朝倉駅から(徒歩で)約3分 ● とさでん交通 朝倉(高知大学前)から徒歩ですぐ

OPEN CAMPUS 2016

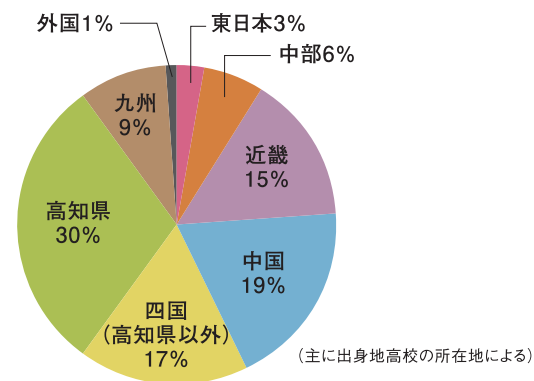
人文社会科学部ってどんなところ?  
どんなことが勉強できるの?

模擬授業の他、入試や学生生活に関する質問・疑問に教員や在学生が対応します。  
詳しくは、人文学部ホームページでお知らせします。

- オープンキャンパス  
2016年8月6日(土)※予定



2012-2015年度入学者出身地



お問い合わせ先

入試について: 入試課  
tel.088-844-8153 ☞ nys-web@kochi-u.ac.jp

学生寮について: 学生支援課(学生寮担当)  
tel.088-844-8565 ☞ gs03@kochi-u.ac.jp

入学科・授業料免除制度について: 学生支援課(入学科・授業料免除担当)  
tel.088-844-8146 ☞ gs03@kochi-u.ac.jp


 人文学部 <http://jinbun.cc.kochi-u.ac.jp/>  
 高知大学 <http://www.kochi-u.ac.jp/>  
 高知大学入試情報サイト <http://www.kochi-u.ac.jp/nyusi/>  
 人文事務室 Tel.088-844-8172 E-mail:gg01@kochi-u.ac.jp

2015年11月増刷



CONCERTO

FACULTY OF HUMANITIES AND  
SOCIAL SCIENCES  
KOCHI UNIVERSITY

高知大学人文社会科学部  
2016年4月よりスタート

※本パンフレットの内容は予定であり、変更する場合があります。



# CONCERTO

グローバル化は予想を超えた速さと規模で進み、その状況は、個々の人間、文化、社会のあり方への「問いかけ」を強めているかのようです。

人文社会科学部には、哲学・思想、心理、歴史・地理、日本・海外文学、文化・地域・言語の多元性、経済、経営、法律・政治をキーワードとする“学びのコア”があります。ここに学ぶ人たちは、これらの“コア”をもとに自分自身の専門的教養を磨いていきます。と同時に、その専門は〈人文社会科学領域〉の幅広い教養と結びついて互いに“架橋”し、交わりあう学びの中からは、柔軟な発想力が生まれていきます。

それはもう、独奏楽器が管弦楽と交わってうまれるCONCERTO～協奏曲～。

## INDEX

01 --- 02	目次
03 --- 04	4年間の学びのプロセス
05 --- 06	学びのしくみ
07 --- 08	コース・プログラム制
09 --- 10	プラットフォーム科目
11 --- 12	人文科学コース
13 --- 14	国際社会コース
15 --- 16	社会科学コース
17 --- 18	キャンパスライフ



# 4年間の学び

人文社会科学部・人文社会科学科には「人文科学コース」、「国際社会コース」、「社会科学コース」があり、それぞれ授与する学位（学士（文学）、学士（学術）、学士（経済学））に対応して専門科目が配置されています。あなたは、ゼミナール教員の指導を受けて、学部共通科目「（人文社会科学領域）プラットフォーム科目」と自身が所属するコースの科目とを両軸として履修を進めていきます。

コースにはあなたが個々に“学びのコア”を形成するためのプログラムを設けています。3コースで合計15のプログラムがあります。入学したコースで1つのコアを形成することを「シングルコア」、コアを2つとする場合は「ダブルコア」、そしてコースを跨いでコアを形成することを「マルチコア」と呼びます。学びの集大成として卒業論文を作成し、各プログラム所定の単位を取得すれば、卒業時に学位とは別に「履修証明書」が授与されます。

## 1 年生

生徒から学生へ  
基礎能力を身に付け、  
学びの方向性を模索する一年

プラットフォーム科目の基礎科目を履修することで、大学生活で何を学んでいくのかを考えていきます。プラットフォーム科目と並行して、「大学基礎論」「学問基礎論」「課題探究実践セミナー」といった科目でも学んでいきます。そこでは大学での学びに必要な基礎能力を習得していきます。図書館の利用の仕方や、雑誌や文献、新聞記事のデー



タベースの使用法、そして、レポートの執筆やレジュメ・プレゼンテーション資料の作成における約束ごとを学びます。また、ゼミナール教員のアドバイスを受けながら、2年生からスタートするプログラムの選択を行います。

## 2 年生

学びの模索から探求へ  
専門分野の調査・分析手法に触れ、  
興味関心を深め、広げる一年



各プログラムの専門科目の履修が本格的にスタートしていきます。また、専門分野のゼミナールに所属します。そこでは、各分野の調査・分析の方法を学びはじめます。そして同時に、あなたの学問的な関心や、社会問題への興味について、深く学ぶためにはどうすればよいかについて、あなたはゼミナール教員からアドバイスを受けることができます。どんな科目をどんな順序で履修すればいいのか？関連する科目は？など、あなたの学びが実り多いものになるようサポートします。こうしたコミュニケーションを通して、ゼミナール教員と知識がどこまで積み重なっているかを確認し、3年生での確かな学びにつなげます。

## 3 年生

学びの探求と融合  
他分野を学び、専門分野を探求する。  
その先にある何かを模索する一年

各プログラムでの専門科目での学びが、徐々に深みを帯びていきます。ゼミナールでは調査・分析能力を高めます。このような専門分野の学びと同時に、プラットフォーム科目の発展科目の履修を併せて行うことで、専門知識と複数の専門分野を相互に関連付ける発想力を養っていきます。発展科目の内容は、学界の先進的な議論を取り入れたものです。



現実に起こっている社会問題の基本的な構造を理解する能力や、様々な課題に対する学問的知見を積極的に活用するときに必要な分野横断的な思考力を鍛えていきます。こうした各プログラムの科目とプラットフォーム科目、さらには他のプログラムの科目の履修による複線的な学びを通して、卒業論文で問うべき課題を見つけ出します。



## 4 年生

学びの総仕上げ  
学びを深め、まとめる苦しみと格闘し、  
自信を胸に、学び続ける人間に

これまでの学びの成果に基づいて卒業論文を執筆します。そのプロセスで、専門的な知識をさらに深めていくことによる専門性の向上はもちろん、課題に対する解決能力や論理的思考力、そして表現力など、社会に必要とされる能力を身に付けます。



コースごとに卒業論文報告会を開催し、学びを深めてきた同志として、学生と教員が同じ空間で、あなたの学びの成果について活発に議論します。あなたが大学に入学する前には想像していなかったレベルの成長を実感することになるでしょう。

## 卒業



# 人文科学と社会科学を織り混ぜた新たな学びのしくみ

複雑さ、困難さが増す現代社会を読み解き、  
解決力が身に付く4つのしくみ

近年、人々が暮らす社会やそこに根差した文化、そして社会を取り巻く経済システムが大きく変化しており、単に総合的、専門的知識をもって対応することは難しくなってきました。専門的知識とそれを活かした思考力に加えて、分野の枠組みを越えた柔軟な発想力も兼ね備える必要性が高まっています。これらの能力を養成するために、人文社会科学部では新たなしくみを4つ用意し、それらを組み合わせた新たな学びのしくみを提供します。専門的知識の体系的な履修によって高度な専門性を身に付けられるとともに、他の専門分野を相互に関連付ける発想力を養ったり、現実を複数の視点から見るできるようになります。

## 知識と知識をつなぐ 学びのしくみ

1年生から卒業まで一貫して少人数ゼミナールを設けています。ゼミナール教員は、あなたが身に付けようとする能力の向上に適した科目をアドバイスし、それぞれの科目で身に付けた知識と知識をつなぐ手助けもします。これらはface to faceでのやりとりに加え、オンライン学習支援システム(SOULS)も用いて行います。

## コース プログラム制

人文科学コース、国際社会コース、社会科学コースの各コースに、専門分野・学問的視点に基づいたプログラム(15プログラム)を設けます。3コースはそれぞれ入試を実施し、入学後は2年生からあなたの関心に沿ったプログラムを選択します。各プログラムでは、専門分野を体系的に学べます。

## コースをまたいだ プログラムの履修 マルチコア

マルチコアとは、入学したコース内プログラムと、他コースのプログラムを2つ履修することができるしくみです。コースをまたいだプログラムを体系的に学ぶことにより、複数の専門分野を相互に関連付ける発想力を養い、複合的な問題解決能力を身に付けることができます。

## プラットフォーム 科目の設定

(合計30単位以上履修)

人文社会科学部のすべての学生が履修する科目群です。グローバル社会と地域社会がどのような課題に直面しているのか、その課題を理解するための視点にはいかなるものがあるか学ぶ科目です。人文科学と社会科学の双方の視点を関連付けて、課題解決の糸口を学びます。



# 専門知識の体系的履習

## 3コース15プログラムが実現する 深みと広がりがある専門性

人文社会科学部には、人文科学コース、国際社会コース、社会科学コースの3つのコースがあります。それぞれのコースが卒業時に授与する学位は、人文科学コースが「学士（文学）」、国際社会コースが「学士（学術）」、社会科学コースが「学士（経済学）」です。

3つのコースのもとに合計15のプログラムが置かれています。プログラムとは専門分野や学問的視点に基づいた科目の集まりであり、ひとつのまとまりを持ち、体系だった学びを促すしくみと言えます。2年生には、あなたが入学したコースに置かれているプログラムを選択し、あなたの“学びのコア”を3年間かけて形成していきます。ひとつのプログラムのなかから12単位以上を修得した学生には、「履修証明書」を授与します。

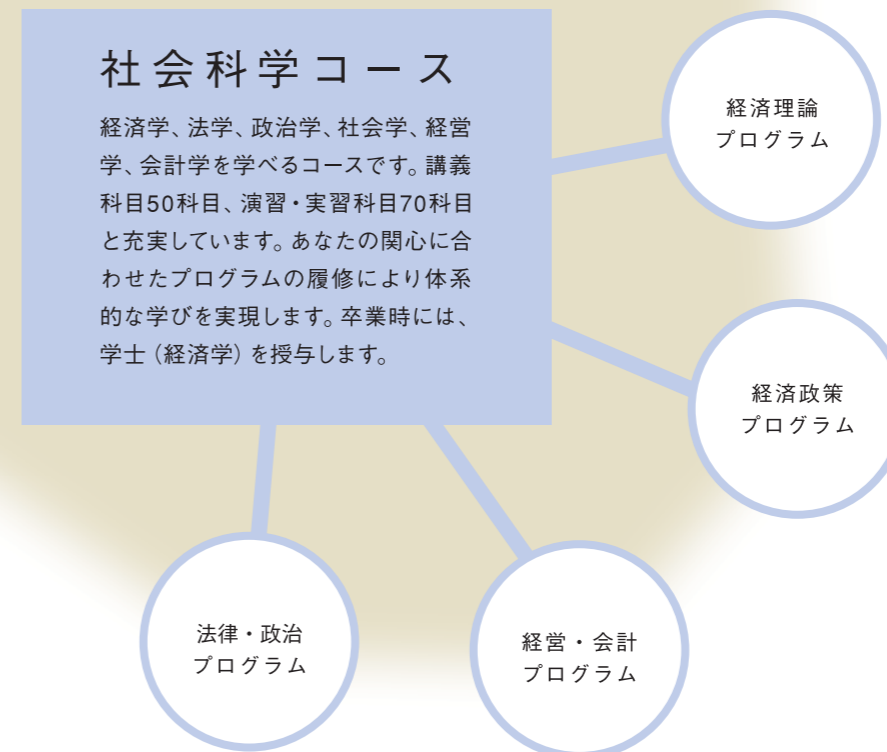


### ダブルコアとマルチコアという 新たな学びのしくみ

人文社会科学部では、複数のプログラムを履修するしくみを提供することで、意欲的な学生の期待に応えます。入学したコースに置かれたプログラムのなかから2つのプログラムを履修することを「ダブルコア」、入学したコースとは異なるコースからもうひとつプログラムを選択し履修することを「マルチコア」と呼び、ふたつの“学びのコア”を形成しようとする意欲的な学生に対して、しくみを構築することで支援します。



## プラットフォーム科目 PLATFORM



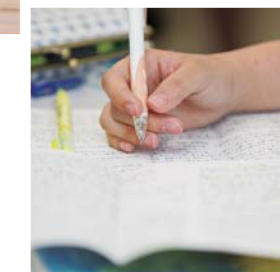
## プラットフォーム科目

### 基礎科目、外国語科目、発展科目からなる学部共通科目群

プラットフォーム科目には、基礎科目群（43科目）、外国語科目群（13科目以上）、発展科目群（28科目）があり、84を越える充実した学部共通科目群です。人文社会科学部のすべての学生が履修する科目群であり、人文科学と社会科学の双方の視点を関連付ける発想力を養い、課題解決の糸口をつかみます。

発展科目は、学界で繰り広げられている先進的な議論を取り入れて授業を展開し、プラットフォーム科目の中心的科目です。現実に行っている社会問題の基本的な構造の理解や、様々な課題に対する学問的知見を活用できる分野横断的な思考力を身に付けます。発展科目の必修科目である「グローバル社会と地域」では、講義と演習を組み合わせる分野横断的分析に取り組む学界の新しい動向を学びます。

発展科目の基盤的科目に位置付けられるのが、基礎科目と外国語科目です。基礎科目では、現代のグローバル社会、地域社会の特徴や形成過程を理解するために必要な人文科学と社会科学の幅広い教養を身に付けることができます。基礎科目の必修科目である「リサーチリテラシー」においては、文献資料・データの分析法について基礎技能を身に付けます。外国語科目では、人文社会科学部で学び、研究し、その成果を発信する場面で必要とされる外国語運用能力を身に付けることができます。



プラットフォーム科目  
合計30単位以上

### 基礎科目

（1・2年次履修）  
基礎科目・外国語科目を合わせて10単位以上（必修2単位を含む）  
※リサーチリテラシー（必修）

リサーチリテラシー	東洋史概論Ⅰ	イギリス文学概論Ⅰ
グローバル社会への視座	東洋史概論Ⅱ	イギリス文学概論Ⅱ
地域研究入門	西洋史概論Ⅰ	中国文学概論Ⅰ
国際社会研究入門	西洋史概論Ⅱ	中国文学概論Ⅱ
社会制度設計論	人文地理概論Ⅰ	経済学概論
哲学概論Ⅰ	人文地理概論Ⅱ	日本経済概論
哲学概論Ⅱ	日本語学概論Ⅰ	経営学概論
倫理学概論Ⅰ	日本語学概論Ⅱ	ミクロ経済学Ⅰ
倫理学概論Ⅱ	日本文学概論Ⅰ	計量経済学
宗教学概論Ⅰ	日本文学概論Ⅱ	政治学概論
宗教学概論Ⅱ	英語言語学概論Ⅰ	法学概論
心理学概論Ⅰ	英語言語学概論Ⅱ	社会学概論
心理学概論Ⅱ	アメリカ文学概論Ⅰ	憲法Ⅰ
日本史概論Ⅰ	アメリカ文学概論Ⅱ	民法Ⅰ
日本史概論Ⅱ		

### 外国語科目

基礎科目・外国語科目を合わせて10単位以上（必修2単位を含む）

専門英語Ⅰ
専門英語Ⅱ
ドイツ語中級Ⅰ
ドイツ語中級Ⅱ
フランス語中級Ⅰ
フランス語中級Ⅱ
中国語中級Ⅰ
中国語中級Ⅱ
スペイン語中級Ⅰ
スペイン語中級Ⅱ
韓国語（朝鮮語）中級Ⅰ
韓国語（朝鮮語）中級Ⅱ
外国語文献講読

### 発展科目

（2～4年次履修）  
8単位以上（必修2単位を含む）  
※グローバル社会と地域（必修）

グローバル社会と地域	社会調査論
越境社会論	現代社会の哲学的課題
越境文化論	環境経済学
社会心理学	大衆文化論
国際関係論	社会文化交流論
地域経済論	異文化間コミュニケーション論
環境と社会	グローバルヒストリー論
社会ネットワーク論	南北アメリカ関係論
男女共同参画の哲学	ヨーロッパ社会文化論
言語・コミュニケーション論	資料保存学
外国語としての日本語	近代社会論
世界経済論	時代区分論
消費者行動論	文化人類学
ビジネス・シミュレーション	環境法

卒業論文

各コースプログラム



人文科学コース

5 プログラム

哲学・思想  
プログラム

英米文学  
プログラム

心理学  
プログラム

日本語・日本文学  
プログラム

歴史・地理学  
プログラム

授与する学位：学士（文学）

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状（国語、社会）
- 高等学校教諭一種免許状（国語、地理歴史）
- 認定心理士
- 学芸員
- 日本語教員養成課程単位修得証明書

※コースを超えた免許の取得を妨げるものではありません。

## 人文科学コース

Humanities Course

人間のさまざまな「知」のあり方に、  
深く幅広く触れていく

人文科学コースでは、哲学・思想、心理学、歴史・地理学、日本語・日本文学、英米文学の5つのプログラムで、人文科学の各領域の専門知識を体系的に学んでいきます。人間や人間がつくり出す文化・社会に対する深い関心を持ち、さまざまな「知」のあり方に深く、幅広く触れて、柔軟に物事を見る目を養成しながら、文献資料やデータを分析する力、文書を作成する力を習得し、問題解決能力を養っていきます。各自が深い関心を持つ学問領域について、1つのプログラムに沿って学んでいきますが、ある時代の文化について幅広く学ぶために歴史・地理学と日本語・日本文学、人間について深く学ぶために哲学・思想と心理学というように、2つ以上のプログラムにまたがって履修することもできます。



哲学・思想プログラム

人間に固有の問題とは何かを探求する

歴史に現われた主要な哲学者の思想を吟味・解釈することを通して、わたしたち人間に固有な問題とは何かを探求します。したがって、定評ある古典を読み解いていくことが研究の第一歩です。さらに、そのようにして培った思索の技術を、現代の複雑な問題に応用して人間の可能性を拡げていきます。

日本語・日本文学プログラム

古代から現代のさまざまな時代の文学作品・日本語を学ぶ

日本語・日本文学プログラムでは、古代から現代に至る、日本のさまざまな時代の文学作品を学ぶことができます。作者の思想や時代背景なども踏まえて、作品や作家について研究していきます。また、文法・語彙・発音など、日本語（方言も含む）そのものを対象とする日本語学の勉強・研究もできます。



心理学プログラム

「心」を科学的な方法を用いて明らかにする

心理学とは「心」を科学的な方法を用いて明らかにし、実際の場面に適用する学問です。本プログラムでも「心」を研究するための様々な実験方法や調査方法を学びます。また、色々な観点から研究する心理学には多くの領域があり、基礎から各領域の知識を積み上げることで認定心理士の資格が取得できます。

英米文学プログラム

英語および英語圏の文学作品を学ぶ

英米を中心とする英語圏の文学作品を原文で読みながら、言語、文化、歴史、人種、民族など様々な観点から検討を加え、その過程で批評精神を養成し、最終的に自己や世界を複眼的・相対的にとらえることを目指します。英語圏の文学作品を素材に文学研究を行う意義と魅力を味わってもらいます。



歴史・地理学プログラム

世界的視野を意識する歴史学  
真の意味で地域と関わる地理学

歴史・地理学プログラムは、歴史学および地理学を専攻するためのプログラムです。歴史学では、さまざまな史資料に基づき、日本そして世界に視野を広げて歴史研究にとりくみます。地理学では、文献調査と現地調査をともに重視することで、真の意味での「地域と関わる学問」にとりくみます。





国際社会コース

6 プログラム

## 国際社会コース

International Studies Course

分野×地域を軸に、グローバル社会で  
国境を越えて連携できる力を養う

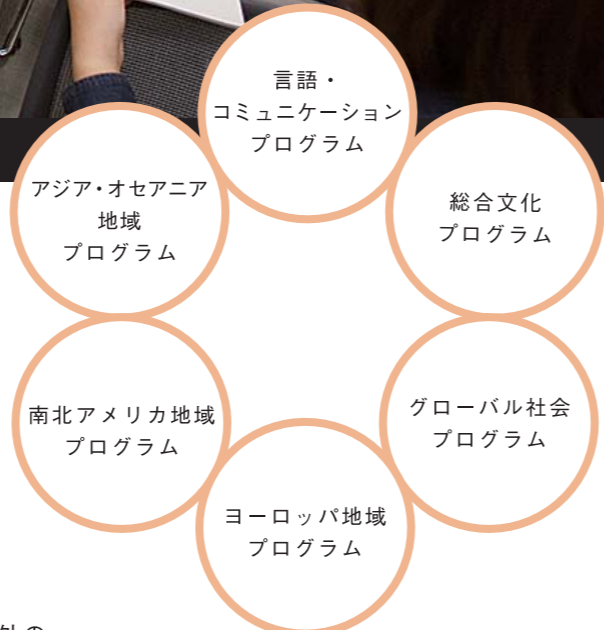
本コースでは、多元化・複雑化するグローバル社会を見据え、国内外の様々な「壁」を乗り越えて羽ばたくことのできる「グローバル市民」を育てます。学びの核は、少人数ゼミナールとセットの《分野×言語の6つのプログラム》と、国内外での《フィールド・スタディ》。様々な外国語の運用能力アップはもちろん、専門知識に裏打ちされた深い洞察力と複眼的な思考力を身につけることで、言語コミュニケーションや異文化／自文化、グローバル社会の問題を主体的に考察・判断できるようになります。1対1のミクロ・レベルから地球規模のマクロ・レベルに至るまで、「他者」と連携できることを目指した「越境する学びの共同体」に、皆さんもぜひ参加しませんか。

授与する学位： 学士（学術）

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状（英語）
- 高等学校教諭一種免許状（英語）
- 学芸員
- 日本語教員養成課程単位修得証明書

※コースを超えた免許の取得を妨げるものではありません。



## 国際社会コースのプログラム制の特徴

このコースのプログラム制には、他の2コースとは少し異なる特徴があります。それは、内容別に専門科目を配置した3つの「分野プログラム」（言語・コミュニケーションプログラム、総合文化プログラム、グローバル社会プログラム）に加えて、それらの分野を横断する形で3つの「地域プログラム」（ヨーロッパ地域プログラム、南北アメリカ地域プログラム、アジア・オセアニア地域プログラム）を設けています。これまでの学問の枠を越えて流動するグローバル社会の中で、学生自身の判断で、フレキシブルかつ分野横断的に学びを進めること——それが、縦横に交叉するコース独自のプログラム制の狙いです。



言語・コミュニケーションプログラム

言語やコミュニケーションの理論を重点的に学ぶ

このプログラムでは、言語学およびコミュニケーション論の基本的な理論を学びます。同時に、ヨーロッパ・アメリカ・アジアの具体的な言語や地域にフォーカスした形で発展的な科目を学びます。また学部開設の日本語教員養成課程の関連科目も組み込まれています。

総合文化プログラム

地域の文化、異文化的観点から見た文化、現代社会における文化の諸相を重点的に学ぶ

ここでは、環境・大衆・交流・越境など多様な視点で文化を論じる科目を基盤とし、ヨーロッパ・アメリカ・アジアの様々な地域を対象として社会と文化のあり方を考える発展的な科目を学んでいきます。また文化と不可分なメディアに関する科目も、このプログラムの重要な一環です。

グローバル社会プログラム

文献の読解、資料の分析、調査の実践からグローバル社会を批判的に考える

現代のグローバル社会のあり方に社会科学の様々な領域からアプローチするプログラムです。国際関係論や世界経済論、文化人類学に加えて、隣接コースの経済学や政治学の科目もあわせて社会科学の基盤を学び、さらにヨーロッパ・アメリカ・アジアの様々な地域の政治・経済・社会について学びます。

ヨーロッパ地域プログラム

ヨーロッパの言語・文化・社会を学ぶ、多面的な理解と実践的な探求力を養う

これは、上の3つの分野を横断して、ヨーロッパ地域に関わる科目を学ぶプログラムです。英語・ドイツ語・フランス語等の言語系科目を基盤とし、ヨーロッパ地域の言語やコミュニケーション、多様な文化、政治・経済・社会について学ぶことで、この地域のあり方を多面的に捉え、探求します。

南北アメリカ地域プログラム

南北アメリカを通して現代世界が抱える問題の本質を見抜く力を養う

このプログラムは、南北アメリカ地域を分野横断的に捉えようとするものです。現在は英語系科目が基盤ですが、新学部ではスペイン語系科目も導入される予定です。さらに英語圏に関わる言語理論やコミュニケーション論、文化、社会、経済、そして南北アメリカ関係について学びます。

アジア・オセアニア地域プログラム

日本を含めたアジア、およびオセアニア地域の言語・文化・社会を多角的に学ぶ

実質的な共通語としての英語に加え、中国語の科目を基盤として学びます。そして中国・日本・東南アジア諸国を中心に、その言語・文化・社会・経済についての様々な科目を通じて、変動する地域の姿に多角的に迫ります。またこのプログラムには、日本語教員養成課程の科目も、多く組み込まれています。







社会科学コース

4 プログラム

経済理論  
プログラム

法律・政治  
プログラム

経済政策  
プログラム

経営・会計  
プログラム

## 社会科学コース

Social Sciences Course

複眼的思考法で社会を捉え、  
問題を解決するための制度をデザインする

社会科学コースは、人間が集まって形成した慣習や社会制度について以下の4つのプログラムを通じて学習していきます。物事を単純化し、経済主体の関係性について考察する経済理論プログラム、地域問題を通じて社会制度を考える経済政策プログラム、継続的な企業活動を可能とする企業内外の仕組みを考える経営・会計プログラム、様々な人の見解や価値観への理解を基礎として、社会問題への解決策を提言する法律・政治プログラム。これらのプログラムはそれぞれ異なる視点で社会問題にアプローチをしています。多様な学問領域の考え方を学ぶことで、複眼的な思考方法を身に付け、様々な社会問題を発見・解決できるような制度をデザインできる人材の育成を目指しています。

授与する学位： 学士（経済学）

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民、商業）
- 学芸員
- 日本語教員養成課程単位修得証明書

※コースを超えた免許の取得を妨げるものではありません。



経済理論プログラム

経済合理性の観点から  
社会制度を見つめなおす

経済理論プログラムでは、ミクロ経済学、マクロ経済学、組織の経済学、金融論、ゲーム理論といった専門科目を学習し、そこで獲得した知識を様々な現実問題へと応用していきます。これにより物事を論理的に考えるための思考力と、複雑な社会問題に対して適切な対処策を考察・提言する能力を養います。

経営・会計プログラム

企業活動の課題を発見し  
解決するための  
専門的な能力を高める

経営・会計プログラムでは、継続的な企業活動を可能とする企業内の仕組みを考えると同時に、企業外からの規制や関連する集団との関係性の維持のために必要な要因について理論的、実践的に学びます。経営学や会計学の理論について学び、専門性を高めると同時に、問題を解決できる能力を養います。

経済政策プログラム

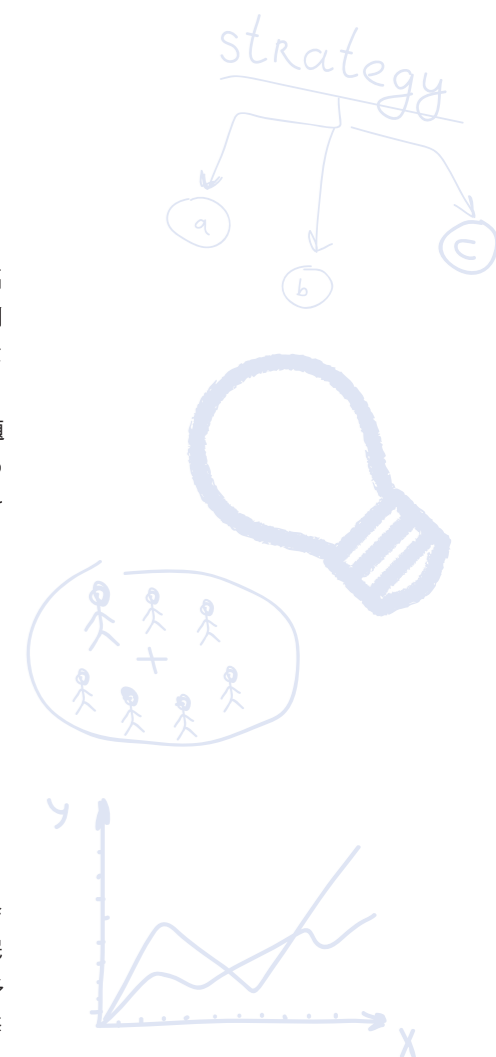
財政、福祉、地域の課題に  
焦点を充てて社会制度を考える

経済政策プログラムでは、財政や福祉、地域の問題を通じて、現代の社会制度に関わる具体的な諸課題に取り組みます。少子高齢化問題、地域の産業、福祉、行財政のあり方などの具体的な政策課題を学ぶことで、経済的観点から諸課題の分析を行うことのできる能力を身に付けます。

法律・政治プログラム

法制度・政治システムを  
広範な科目を通じて  
体系的に学ぶ

法律・政治プログラムでは、人文社会科学の諸分野を広く学んだ後に憲法、民法、商法、政治学といった専門科目を多く履修していくことになります。知識の修得のみならず、現地調査や施設見学等を通して、鋭い人権感覚とともに、現実の社会問題への解決策を提言できるような能力を身に付けます。



## 大学内の色々な施設をご紹介します

高知大学のキャンパス内にはいろんな施設があります。普段の生活から勉強の補助まで、上手に利用することでより豊かなキャンパスライフをおくりましょう。



### 学生会館



食堂や購買が入っています。食堂では栄養バランスを考えたメニューが揃い、焼きたてのパンもあります。



### メディアの森



ネットワーク接続可能な環境を整えた図書館との融合施設。21時まで利用可能で、多くの学生が勉学に励んでいます。



### レファレンスコーナー



文献の検索、特定文献の事項及び所在の調査等、その他新聞・雑誌・図書の検索相談の窓口です。レポートの作成、卒業論文の執筆時の頼もしい存在です。

### 学部窓口



授業内容や履修方法の相談から証明書の発行や各種届出まで学生生活に関する窓口です。

### 自律学習支援センター (OASIS)



語学を中心にマルチメディアの教材が豊富に揃っています。自習用スペースなので、いつでも利用できます。

### コラパ〜 (コラボレーション・サポート・パーク)



地域社会と大学をつなぐ窓口として、学生主体の様々な活動を組織的に支援しています。

## イベント

### 高知大学ならではの名物イベント一緒に体験しましょう!!

学生の本分は勉強。とはいえ、時には「書」を捨て飛び出してみてもいい。イベントに参加することから得られる多くのことは、いつか必ず役に立ちます。



#### 高知初冬の風物詩!? 室戸貫歩

室戸岬までの100キロを歩き通す大学伝統の行事。30時間かけてたどり着く人も。歩き方は人それぞれ。そして参加者も様々。皆さんもぜひ一度参加してみてもいい。大半の学生は一度でもう十分と言いますが。



#### 土佐の高知のはりまや橋で♪よさこい祭り

高知の夏を彩るよさこい祭り。「高知に来たからには」とよさこいを始める学生も多く、日々練習に励む姿は青春そのもの。祭り本番には、高知の町そのものが舞台となります。ぜひ一緒に踊りましょう。

## Event Schedule イベントスケジュール

4月

- 入学式 第1学期 授業開始



8月

- 上旬 オープンキャンパス よさこい祭り



- 中旬~下旬 夏季休業

9月

- 上旬~下旬 特別授業期間

10月

- 第2学期 授業開始

11月

- 上旬 ホームカミングデー 黒潮祭(大学祭)
- 下旬 室戸貫歩

2月

- 上旬~下旬 特別授業期間

3月

- 上旬~下旬 春季休業
- 下旬 卒業式・祝賀会

行事があるね〜 結構色々



### 学生寮について

人文学部の学生が通う朝倉キャンパス周辺には、この「かつら寮」(女子60人)の他に、「ときわ寮」(女子80人)と「南深寮」(男子242人)が用意されています。詳しくは、学生支援課にお問い合わせください。

学生支援課(学生寮担当)  
tel.088-844-8565 ☑ gs03@kochi-u.ac.jp

### 入学金・授業料免除制度について

経済的理由等によって、入学金や授業料の納付が困難である学生は、全額または半額が免除される場合があります。詳しくは、学生支援課にお問い合わせください。